

子どもたちの健やかな成長を願って人権擁護委員は人権教室や相談、作文コンテストでの啓発などの活動を行っています。  
主な活動は「人権の花」運動、SOSミニレター、中学生人権作文コンテストです。

### 「人権の花」運動

人権擁護委員が毎年順番に、小学校・園を訪問して一緒に「人権の花」運動に取り組んでいます。  
秋に子どもたちが水仙の球根の植え付けを行い、水やりや植木鉢の観察など春まで見守り育てることで命の大切さや思いやりの心を育み、人権に対する理解を深めて豊かな人権感覚を養うことを願って実施しています。

### 「全国中学生人権作文コンテスト」

綾部市、福知山市の中学生が毎年人権作文に取り組み、令和7年度は847編の応募があり、10名の生徒が入賞されました。  
次頁にお名前と代表作文を掲載しています。  
作文の内容から、SNS問題や性の多様性、いじめや差別などに対して中学生の皆さんの人権意識が高まっていることが感じられます。人権尊重の重要性や必要性の理解とその思いが未来へつながることを願っています。



### 「こどもの人権SOSミニレター」

学校における「いじめ」や家庭内での虐待などの問題に対する活動として「SOSミニレター」を小学校・中学校に配布し、子どもたちが相談したいことを書いて送ったSOSミニレターに対し、人権擁護委員は子どもの心に寄り添った返事を書いています。  
子どもの悩みを的確に把握し、学校や関係機関と連携して解決に当たっています。



令和7年12月27日、市民交流プラザふくちやまにおいて、協議会の表彰式を行いました。

- 令和7年度  
全国中学生  
人権作文コンテスト  
京都大会入賞者
- ◆ 福知山人権擁護委員協議会長賞 及び府連関係 (管内応募総数 847編)
  - ◆ 優秀賞 ◆ (京都地方法務局長賞)
    - 京都共栄学園中 (2年) 福井 結貴さん
    - 〈KBS京都賞〉
    - 京都共栄学園中 (2年) 赤西 隼さん
    - 大江中 (3年) 三沢 心華さん
    - 〈京都サンガF.C賞〉
    - 大江中 (3年) 荒賀 海花さん
  - ◆ 佳作 ◆
    - 福知山高校附属中 (1年) 廣瀬 聖さん
  - ◆ 福知山人権擁護委員協議会長賞 ◆
    - 綾部中 (2年) 野々垣愛来さん
    - 何北中 (2年) 金田かなんさん
    - 日新中 (2年) 清水 結衣さん
    - 日新中 (2年) 田中 凛さん
    - 日新中 (2年) 山田 拓和さん

## 令和7年度 全国中学生人権作文コンテスト京都大会 ☆優秀賞☆ 「京都地方法務局長賞」

### 「姉が教えてくれたこと」

京都共栄学園中学校 二年  
福井 結貴



世の中には障害への偏見がある。私は、今までにそう感じる場面を、たくさん見してきた。なぜなら、私には、十歳の離れた姉がいる。

姉は、外見ではわからないことが多いが、言葉のやりとりが難しい知的障害がある。だから、私は小さい頃から障害といつものすべに感じてきた。けれど、そうでない人は「障害」を自分には関係がないと感じているのかもしれない。他人事にして、知らないままでいることは、誰かを傷つけてしまうことがある。だから、知ろうとする一歩を大事にしてほしいと思う。

私が障害について考え始めたのは、小学校に入った頃だった。母が姉の障害について話してくれて、そこで初めて知った。その時はまだ、よくわかっていなかった。

ある日、小学校で友達に「お姉ちゃんってどんな人なの？」と聞かれ、「障害があるんだ。」と伝えた。すると、からかうように「どんな障害なん？」と聞かれたり、いつもとは違う冷たいような視線で見られた。私は、この眼差しが辛くて悲しかった。

私は、このようなことを何度か経験した。聞かれるたびに、すごく胸が痛い思いをしてきた。障害があるだけで「普通ではない」というように受け取られるのが嫌だった。

また、周りに「姉が障害者である」ということを知られるのが恥ずかしく、とても怖くなった。それから私は障害について人で考えたり、悩んだりすることがたくさんあった。なんで私の姉はみんなと同じじゃないんだろうと思ってしまうこともあった。姉のことを「他のみんなと違う」と感じる部分ばかりが目に入って、姉が悪いわけではないのに、心の中で姉を責めてしまつて、姉に対してイライラして優しく接していない時があった。

その思いは、誰にも相談できたことがなかった。それゆえに、自分人では障害に対してのマイナスな思いを変えられなかった。そんな私の思いは、姉の通っていた支援学校での文化祭で変わった気がした。

私は、母に連れられて行って行っただけだったが、そこで展示されている作品を見た。

私は、姉のクラスで作られたつまようじアートの作品を見た。それは、細かく丁寧に作られていて、色合いが綺麗だった。姉たちが頑張って作っている姿を想像した。

私はこれをきっかけに気持ちが変わったと思う。それまで私は、障害を「恥ずかしいこと」や「不自由」など良くないイメージばかりを持っていた。障害についてちゃんと知ってほしいのに、可哀想という目で見えていた私が、ずっと間違っていたと気づけた。心の中で姉を責めていたことを後悔した。

それから私は、私のように障害のあるきょうだいをもつ子供を、きょうだい児と呼ぶと母から聞きました。

私は、それを聞いた時に悲しさと安心を感じた。始めはきょうだい児と聞いて、なんで区別する言葉があるんだろうという疑問や自分だけ区別されているような悲しさを感じた。しかし、他にも私のように障害のある人が家族にいて同じような悩みを抱えている人がいるのかもしれないと感じて、自分だけではないのだと安心できた。

今まで私は、周りの家庭と比べて落ち込んでしまっていた。でも、きょうだい児として生きている人は私だけではないと実感した。「きょうだい児」という名前を後ろめたく考えるのではなく、前向きに考えていきたいと思った。そして、私と同じような悩みを抱えている人がいるなら、「二人じゃない」ということを伝えたい。

私は、みんな同じじゃないように障害も個性だと思つたようになった。個性と言つ

ても、障害は周りの理解や支えが必要である。障害について知って支えられる人になるために、まず障害についてもっと知ってほしい。知らないままだと、障害の有無で社会に線引きをしてしまう。それは、多くの人の心を傷つけてしまう。しかし、正しく知ることによって障害者の心を傷つけることなく、障害に対して「その人らしさ」や素敵と思える場面が増えると思う。

私は、その小さな変化が障害のある方が生きやすい社会に繋がっていくと思つた。

「中学生人権作文コンテスト」講評  
京都地方法務局 福知山支局長 吉川 利彦

法務局と人権擁護委員協議会では、誰もが人権問題を自分や自分の身近な人の問題として捉え、互いに人権を尊重し、他人の人権にも配慮した行動をとることの大切さを意識するよう、「誰かのことじゃない」を啓発活動重点目標に掲げ、様々な人権啓発活動を実施しています。

これらの活動の一つとして、次代を担う中学生の皆さんが、人権問題について作文を書くことにより、人権尊重の重要性、必要性についての理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身に付けてもらうことを目的として、昭和56年度から「全国中学生人権作文コンテスト」を開催しています。

本年度は、福知山市及び綾部市の中学校17校の生徒の皆さんから、847編の応募をいただきました。

応募いただいた作品は、障害、差別、いじめ等をテーマとし、自らの体験等を通して率直に表現され、中学生らしい豊かな感性、純粋な視点から人権問題を捉えたもので、読む人の心に強く訴えかける内容でした。

# かがやき



人権イメージキャラクター  
 人KENまもる君 人KENあゆみちゃん  
 発行／福知山人権擁護委員協議会  
**第17号** 2026年(令和8年) 2月発行  
 京都地方法務局 福知山支局内  
 TEL (0773) 22-1293

[2年目の取り組み] **障害者イベントに参加**

## スポーツでふれあい 認識深め活動展望へ



福知山人権擁護委員協議会の新たな取り組みとして、令和6年度から障害者スポーツイベントに参加しています。

障害のある人とふれあうことでまずその実態を知り、学ぼうと当協議会の高齢者障がい者人権委員会が、引き続き取り組んだものです。

「福知山スポレクフェスタ」には、ボッチャの競技に参加し、「あやリンピック」には、ボランティアスタッフとしても参加しました。また、今回は人権啓発のブースを設け啓発グッズやパンフレットを配布し私達人権擁護委員の活動を知っていただく機会もいただきました。

障害の種類や程度によりハンディは様々です。私達人権擁護委員は、この体験を今後の活動に生かしていきたいと考えています。



福知山スポレクフェスタ  
 (三段池総合運動公園体育館)



あやリンピック(あやべ・日東精工アリーナ) ©  
 (写真提供=あやべボランティア総合センター)

時代の変換期には、想定外の現象が訪れる。14世紀、欧州でペストが大流行し、その後の労働力不足が活版印刷を始めとした革新技術を促した。

今世紀コロナ禍では、急速に広がったオンライン生活が、世界中のデジタルデータを増やし、プラットフォームによるAI開発の助けとなった。

それが今、私たちの生活に大きなインパクトを与えていると同時に、リスクも想像以上となり、誹謗中傷や差別等が簡単に流布され大きな社会問題となっています。

「誰もが幸せであり続けられる社会」を実感できるように、私たちは真摯に努力を重ね活動して参りますので、ご協力をいただきますようお願いいたします。



福知山人権擁護委員協議会  
 会長 山本みさ子

# 皆さんの問題解決のお手伝いをします

## 人権擁護委員の活動

- お困り事・人権相談に応じています。(法務局や市内7か所での特設相談、子ども・女性の電話相談)
- 人権侵害による被害者を救済する活動。(法務局職員と協力して調査を実施)
- 市民一人ひとりの人権意識を高めるため、さまざまな啓発活動に取り組んでいます。



FM丹波で広報活動

- ★保育園・幼稚園・小学校で「人権の花」運動・人権教室
- ★中学生人権作文コンテスト
- ★こどもの人権SOSミニレター
- ★男女共同参画週間街頭啓発
- ★障害者スポーツイベント協力参加
- ★人権広報紙「かがやき」年1回発行(全戸配布)

## 人権擁護委員による人権相談

こんな窓口があります

みんなの人権  
 110番  
 人権イメージキャラクター  
 人KENあゆみちゃん  
 ゼロゼロみんなのひやくとおぼん  
**0570-003-110**

こどもの人権  
 110番  
 人権イメージキャラクター  
 人KENまもる君  
 ぜろぜろみんなのひやくとおぼん  
**0120-007-110**

福知山市・綾部市での特設人権相談所

福知山市役所 市民相談室	毎月第4月曜日	13時～16時
三和支所	毎月15日	9時～12時
夜久野ふれあいプラザ	毎月20日	9時～12時
大江町総合会館	毎月10日	9時～12時
綾部市役所	毎月10日	13時～15時

(物部会館・上林いきいきセンターは要予約)  
 ※相談日が土曜・日曜・祝日と重なる場合は、前日又は翌日になります。

京都府施設での特設人権相談所

福知山総合庁舎	奇数月 第1火曜日	13時30分～16時30分
綾部総合庁舎	偶数月 第1火曜日	13時30分～16時30分

常設人権相談所  
 ・法務局福知山支局/毎日(土・日・祝日を除く)8時30分から17時15分  
 福知山市字内記10-29 TEL 0773-22-1293

- 岸蒲柿岡岡植上山村福永土白四大  
 和 坂野田村田本上井井田波方島  
 田 み 瀬 得  
 正善千天壽擁博さ元良智哲敏  
 人光代明仁子康子宏子子生博泉士
- 
- 吉山松眞藤伴中月田高倉吉  
 見口田下田中見見中橋垣良  
 明 眞 佳  
 日昇壽礎芳信正久正康代  
 博子司美子子治代志則子

人権擁護委員はあなたの  
 身近な相談相手です。

3ページから  
 本誌では、毎年優秀な作品を掲載していますので、是非ご覧いただければと思います。  
 また、法務省のホームページには、これまでの入賞作品集や、入賞作品を題材にしたコンテストが掲載されています。どうぞ、これらの作品にも触れてみてください。  
 法務局福知山支局及び福知山人権擁護委員協議会は、引き続き各種人権啓発活動に取り組んでまいります。  
 今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。